

白山市学童野球連盟審判部

ルール適用事例集

2014年度+2020年

審判部長
西 正康

今年度は春先からの新型コロナウイルスの世界的なまん延によって、本連盟においても前半の大会がほとんど開催されないという異常事態が発生。例年行っていました春の審判講習も実施できないままシーズンの終盤を迎えようとしています。

そこで過去に紹介した野球規則事例集に本年度の少ない大会の中ですが私が経験した、よくありがちだけどいざその場ではどんなジャッジをすべきか迷ってしまう事例を加えて再発行しました。

以下は発行当初（2014年11月）の序文です。

当時と比べ、野球規則も変わっている点がありますが、紹介している事例では変更の影響は受けていないケースのはずです。

ただし、規則条文の項目・分類番号および文章表現等現在は変わっている個所もありますのでご注意願います。

2020年9月20日

白山市学童野球連盟 審判部部長 西 正康

* * * * *

はじめに

今年度の白山市学童野球連盟公式戦も10/12～の新人大会をもって全日程が終了いたしました。

そこで今シーズン私自ら審判員として試合で経験したり、観戦時に実際に目撃したり聞いた事例を該当する公認野球規則の条文とともにいくつか紹介いたします。

なかには規則条文を割愛した事例もありますが、その場合には記載されている条文の項目を記載しましたので、公認野球規則本誌にて確認願います。

父兄や指導者の方々にとっては子供たちへの指導やプレーの説明時に、審判員のみなさんには練習試合などで実際に審判される際の参考になればとの思いでまとめてみました。

2014年11月9日

白山市学童野球連盟 審判部部長 西 正康

1. 打順の間違い

市春季大会

(発生時、ニシは現場にはいなかった)

この状況下でくださるジャッジについて説明します

不正位打者がアウトになる場合

不正位打者が打撃を完了し、次打者に対し1球投球されるか、または次打者への投球前でもプレーが発生（塁への送球＝牽制球など）前に守備側からアピールがあった場合。

その際、不正位打者の打球によるものか、または不正位打者が安打、失策、四死球、その他で一塁に進んだことに起因した、すべての進塁および得点をすべて無効とする。

不正位打者が正当化される場合

不正位打者が打撃を完了し、次打者に対し1球投球された。

または次打者への投球前でもプレーが発生（塁への送球＝牽制球など）した場合。

※不正位打者の打撃中に守備側からアピールがあった場合、または攻撃側が誤りに気付いた場合には、正位の打者がカウントを引き継いで試合を続行する。

その際、走者が不正位打者の打撃中に盗塁、ボーク、暴投、捕逸などで進塁することは正規のプレーとされ、元の塁に戻されることはない。

この件について、野球規則の規定項目は数ページに渡って記述されており、全文を掲載すると長くなるので、公認野球規則本誌にて下記該当項目を確認し把握ねがいます。

該当する公認野球規則

6.07 打撃順に誤りがあった場合 (a)～(d)

(2014 公認野球規則 77ページ～81ページ)

2. 打者の守備妨害

県スポ少ブロック大会

(球審：西)

プレーの詳細

攻撃チーム 1死1・3塁

1塁走者盗塁時、打者は空振り後よろけて2塁送球しようとした捕手にぶつかった。その結果1塁走者は2塁セーフ。3塁走者も捕手の2塁送球の間に本塁へ進み得点。

くださったジャッジ

1塁走者の進塁及び3塁走者本塁に触塁の時点でタイムを宣告。
打者を守備妨害でアウトとし、走者をそれぞれ元の塁に戻して二死1・3塁で試合再開

該当する公認野球規則

6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。=75ページ～ (a)・(b)省略

6.06(c) 打者がバッターボックスの外に出るか、あるいはなんらかの動作によって、本塁での捕手のプレイおよび捕手の守備または送球を妨害した場合。

しかし例外として、進塁しようとしていた走者がアウトになった場合、および得点しようとしていた走者が打者の妨害によってアウトの宣告を受けた場合は、打者はアウトにならない。

【原注】 打者が捕手を妨害したとき、球審は妨害を宣告しなければならない。打者はアウトになりボールデッドとなる。妨害があったとき、走者は進塁できず、妨害発生の瞬間に占有していたと審判員が判断した塁に帰らなければならない。しかし、妨害されながらも捕手がプレイをして、アウトにしようとした走者がアウトになった場合には、現実には妨害がなかったものと考えられるべきで、その走者がアウトとなり、打者はアウトにならない。その際、他の走者は、走者がアウトにされたら妨害はなかったものとするという規則によって、進塁も可能である。このような場合、規則違反が宣告されなかったようにプレイは続けられる。

打者が空振りし、《スイングの余勢で、》その所持するバットが、《捕手または投球に当たり、審判員が故意ではないと》判断した場合には、打者の妨害とはしないが、ボールデッドとして走者の進塁を許さない。打者については、第1ストライク、第2ストライクにあたるときは、ただストライクを宣告し、第3ストライクにあたるときに打者をアウトにする。(2ストライク後の“ファウルチップ”も含む)

以下、【注1】・【注2】についても文章は紹介しませんが、公認野球規則本誌にて確認、把握してください。

3. ボーク関連

白山市スポ少Aリーグ

(西：観戦)

プレーの詳細

守備側チームのバッテリーが走者の絡んだ打撃を阻止しようとして捕手がウエストボールを要求した際、投球前に捕手がキャッチャースボックスから片足を完全に外に踏み出して打者の外角遠くにミットを構えた後に投球された。

※疑問に思っただけの結果、このプレー自体は反則ではないので当然ペナルティもないが、しかし状況によってはボークとなる。

該当する公認野球規則

8.05 塁に走者がいるときは、次の場合ボークとなる。

(a) ～ (k)、(m)省略

(1)故意四球が企図されたときに、投手がキャッチャースボックスの外にいる捕手に投球した場合。 (2014 公認野球規則 132 ページ)

【注】

“キャッチャースボックスの外にいる捕手”とは、捕手がキャッチャースボックス内に両足を入れていないことをいう。したがって、故意四球が企図されたときに限って、ボールが投手の手を離れないうちに捕手が片足でもボックスの外に出しておれば、本項が適用される。

4. 投手の禁止事項

白山市スポ少Aリーグ

(球審：西)

プレーの詳細

攻撃側チーム走者2塁の時、守備側チームの投手が2塁走者の刺殺を目的に塁に送球したが、野手が入っておらず送球がセンターまで転がった

くだしたジャッジ

そのまま流した

ただし、このようなプレーが頻繁に行われた場合、投手の禁止事項に該当するのでボールを宣告する。

該当する公認野球規則

8.02 投手は次のことを禁じられる。(2014 公認野球規則 126 ページ～) (a)・(b) 省略

(c) 打者がバッターボックスにいるときに、捕手以外の野手に送球して、故意に試合を遅延させること。ただし、走者をアウトにしようと企てる場合は除く。

ペナルティ 審判員は1度警告を発し、しかもなお、このような遅延行為が繰り返されたときには、その投手を試合から除く。

(【注 1】省略)

【注 2】アマチュア野球では、本項ペナルティの後段を適用せず、このような遅延行為が繰り返されたときは、ボールを宣告する。

参考：公認野球規則 8.05 (h) (2014 公認野球規則 132 ページ)

8.05 塁に走者がいるときは、次の場合バークとなる。

(h) 投手が不必要に試合を遅延させた場合。

【原注】本項は、8.02 (c) により警告が発せられたときは、適用されない。投手が遅延行為をくり返して8.02(c)により試合から除かれた場合には、あわせて本項のバークも課せられる。(以下省略)

8.02(c)の【注 2】で規定されているようにアマチュア野球では遅延行為が即バークとなることはありません。ただし、明らかに遅延行為であるとみなされた場合、バークを課せられることがあります。

(上記に紹介したプレイは1回だけ行われました)

投手の遅延行為は厳しく罰せられることを理解してください。

5. 走者が安全に進塁できる場合

白山市スポ少Aリーグ

(西：観戦)

プレイの詳細

攻撃チーム走者1塁、走者が2塁へ盗塁したため投球を受けた捕手が2塁へ送球。

(その際、打者の空振りはなかった)

その送球が打者の持つバットに当たって3塁ベンチ横のボールデッドライン越えた。

くだしたジャッジ

1塁走者の盗塁を有効とし、2ベース進塁させて走者3塁とし試合再開。

該当する公認野球規則

①6.06(c) (2014 公認野球規則 76ページ)

【注 1】

打者が空振りしなかったとき、投手の投球を捕手がそらし、そのボールがバッターボックス内にいる打者の所持するバットに触れた際はボールインプレイである。

※ 空振りした後、そのスイングの余勢でバットに当たった場合はボールデッド

⇒ 6.06(c)【原注】の後段に記述あり

②7.05(h)【付記】 (2014 公認野球規則 95ページ)

次の場合、各走者（打者走者を含む）は、アウトにされるおそれなく進塁することができる。

【付記】

投手の投球が捕手を通過した後（捕手が触れたかどうかを問わない）さらに捕手またはその他の野手に触れて、ベンチまたはスタンドなど、ボールデッドになると規定された箇所に入った場合、および投手が投手板上から走者をアウトにしようと試みた送球が、その塁を守る野手を通過した後（その野手が触れたかどうかを問わない）さらに野手に触れて、前記の箇所に入ってボールデッドになった場合、いずれも、投手の投球当時の各走者の位置を基準として、各走者に2個の塁を与える。

このプレーでは、捕手の送球がバットに当たった時点では上記①によりボールインプレーでした。

そして、その送球がボールデッドゾーンに入ったため、②の項が適用されて1塁走者ティク2のジャッジとなりました。

6. 打者の反則行為

①練習試合・②市J A大会 (球審：西)

プレーの詳細

①攻撃側チーム1死走者2・3塁でスクイズプレーが行われた。

右打席の打者は両足を本塁ベースに置いた状態で外角低めの投球をバントした。

3塁走者はホームイン、2塁走者は3塁へとそれぞれ進塁した。

②攻撃側チーム無死走者1・2塁。送りバントが行われた。

右打者は右足を本塁ベース後端上に置いて投球をバントした。

走者はそれぞれ2塁・3塁へ進塁した。

くだしたジャッジ

(①・②とも同じ)

タイムを宣告し、打者は反則打球でアウト。走者はそれぞれ投手の投球時点で占有していた塁へ戻し、①＝2死2塁・3塁、②＝1死1塁・2塁として試合再開した。

該当する公認野球規則

6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。(2014 公認野球規則 75ページ)

(a) 打者が片足または両足を完全にバッターボックスの外に置いて打った場合。

【原注】

本項は、打者が打者席の外に出てバットにボールを当てた(フェアかファウルかを問わない)とき、アウトを宣告されることを述べている。球審は、故意四球が企てられているとき、投球を打とうとする打者の足の位置に特に注意を払わなければならない。打者は打席から跳び出したり、踏み出して投球を打つことは許されない。

5.09 次の場合にはボールデッドとなり、走者は1個の進塁を許されるか、または帰塁する。その間に走者はアウトにされることはない。(2014 公認野球規則 63ページ)

(a)～(c)、(e)～(h) 省略

(d) 反則打球の場合—各走者は戻る。

7—1. 番外編：得点の記録

2014 甲子園夏季大会：広陵高校×三重高校

プレーの詳細

三重高校が延長回裏の攻撃時、満塁から打者の四球によって3塁走者が押し出されて進塁し決勝点を得た際、四球を選んだ打者走者が喜びのためか、なかなか1塁に触塁せず、1塁コーチからの進言でようやく触塁し三重高校のサヨナラ勝利が確定した。

(西：テレビにて観戦) (アウトカウントは不明です)

該当する公認野球規則

4.09 得点の記録 (2014 公認野球規則 48ページ～) (a) 省略

4.09 (b) (同上 50ページ・51ページ)

正式試合の最終回の裏、または延長回の裏、満塁で、打者が四球、死球、その他のプレイで1塁を与えられたために走者となったので、3塁走者が本塁に進まねばならなくなり、得点すれば勝利を決する1点となる場合には、球審はその走者が本塁に触れるとともに、打者が1塁に触れるまで、試合の終了を宣告し

てはならない。

ペナルティ

前記の場合、3塁走者が適宜な時間がたっても、あえて本塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、球審は、その得点を認めず、規則に違反したプレーヤーにアウトを宣告して、試合の続行を命じなければならない。

また、2アウト後、打者走者があえて1塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、その得点は認めず、規則に違反したプレーヤーにアウトを宣告して、試合続行を命じなければならない。

0アウトまたは1アウトのとき、打者走者があえて1塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、その得点は記録されるが、打者走者はアウトを宣告される。

【原注】一省略

【注】

たとえば、最終回の裏、満塁で、打者が四球を得たので決勝点が記録されるような場合、次塁に進んで触れる義務を負うのは、3塁走者と打者走者だけである。

3塁走者または打者走者が適宜な時間がたっても、その義務を果たそうとしなかった場合に限り、審判員は、守備側のアピールを待つことなくアウトの宣告を下す。

打者走者または3塁走者が進塁に際して塁に触れ損ねた場合にも、適宜な時間がたっても触れようとしなかったときに限り、審判員は、守備側のアピールを待つことなく、アウトの宣告をくだす。

以上は満塁 ⇒ 四球の場合での規定です。

次項に参考として打者走者に1塁進塁の義務がないケースを紹介します。

7—2. 得点の記録 参 考

アマチュア野球内規（2014年）

最終回裏の決勝点

正式試合の最終回の裏かまたは延長回の裏に、規則 7.07 規定のプレイで3塁走者に本塁が与えられて決勝点になる場合には、打者は1塁に進む義務はない。

公認野球規則 7.07

三塁走者が、スクイズプレイまたは盗塁によって得点しようと試みた場合、捕手はまたはその他の野手がボールを持たないで、本塁の上またはその前方に出るか、あるいは打者または打者のバットに触れたときには、投手にボールを課して、打者はインターフェアによって1塁が与えられる。この際はボールデッドとなる。

【注1】～【注4】は省略

つまり、アマチュア野球内規では四死球などによって押し出される状況で得る点が決勝点となる場合には、打者走者は1塁進塁の義務を負うが、上記7.07のようにボークによって走者の進塁を規定した規則に該当する場合には打者走者に進塁の義務はないこととなります。

以下2020年度発生事例

8. 捕手のはじいた投球がバットに触れてファールゾーンにころがった

市フレッシュジュニア大会 準決勝

(西：観戦)

プレーの詳細

攻撃チーム走者1塁、走者が2塁盗塁を試みた際、捕手がストライクの投球をはじいてころがったボールに打者の持ったバットが偶然触れてファールゾーンにころがった（その際、打者の空振りはなかった）

くだしたジャッジ

打者にファールをコール。1塁走者の盗塁は認めた。

本来下すべきだったジャッジ

バットにボールが触れた時点でボールデッドとし、カウントはストライク、2塁盗塁を試みた走者は1塁に戻す

該当する公認野球規則

【6.03(a)(3)(4)原注】

(前段省略) 打者が空振りし、スイングの余勢で、その所持するバットが、捕手または投球 に当たり、審判員が故意ではないと判断した場合は、打者の妨害とはしないが、ボールデッドとして走者の進塁を許さない。打者については、第1ストライク、第2ストライクにあたる時は、ただストライクを宣告し、第3ストライクにあたるときに打者をアウトにする（2ストライク後の“ファールチップ”も含む）。

(2020 公認野球規則 110 ページ 後段)

9. 内野ゴロを処理しようとした野手に走者がぶつかった

市フレッシュジュニア大会 準決勝

(西：観戦)

プレーの詳細

走者1塁、打者が打った1-2塁間のゴロを処理しようとした2塁手と1塁走者がぶつかった。2塁手は2塁進塁を防ごうと2塁送球をねらうも間に合わないと判断し十分に間に合う1塁に送球した。

くださったジャッジ

1塁走者は2塁セーフ。打者走者は1塁アウト。

本来下すべきだったジャッジ

打球を処理しようとしている2塁手と1塁走者が接触した時点でボールデッド。1塁走者は守備妨害によりアウトとし、打者走者は1塁に生かす。

該当する公認野球規則

【5.09(b) 走者アウト(3)】

走者が、送球を故意に妨げた場合、または打球を処理しようとしている野手の妨げになった場合。

ペナルティ 走者はアウトとなり、ボールデッドとなる。[6.01(a) インターフェアに対するペナルティ]

参照。(2020 公認野球規則 59ページ)

【6.01(a) 打者または走者の妨害(10)】

走者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったか、あるいは送球を故意に妨げた場合。(後段省略)

【6.01(a) インターフェアに対するペナルティ】

走者はアウトとなり、ボールデッドとなる。審判員が打者、打者走者または走者に妨害によるアウトを宣

告した場合には、他のすべての走者は、妨害発生の瞬間にすでに占有していたと審判員が判断する塁まで戻らなければならない。(ただし以降省略)

(2020 公認野球規則 89ページ 前段)

【競技者必携 2020】問答集より (99 ページ)

問 128

1アウト走者一・三塁、打者が二塁ゴロを打った。野手が捕球後二塁へ送球しようとしたとき、一塁走者と衝突したので、審判員は守備妨害を宣告した。打者走者は一塁に達していなかったが、三塁走者はすでに本塁を踏んでいた。どう処置したらよいか。

答

一塁走者アウト。攻撃側の妨害が、打球または打球を処理しようとしている野手に対して発生した場合は、各走者は投手の投球当時占有していた塁に戻らなければならない。2アウトで、三塁走者を三塁に戻し、打者には一塁を与える。

※打者に1塁を与えることについて（上記波下線部）

打者に1塁を与える点を不思議に思われる方もいるかもしれませんので以下の規則条文を参照下さい

6.01(a) 打者または走者の妨害(5)【注】

（前段省略）

ただし、打球を直接処理した野手が打者走者に対して守備を行わず、他の走者に対して行おうとした守備が妨害された場合には、その走者をアウトにし、その他の走者は、投手の投球当時占有していた塁に戻らせる。しかし打者走者だけは、再びバッターボックスに帰せないから、一塁の占有をゆるす。

（後段省略）

（2020 公認野球規則 87 ページ）